

■イタリア：世界初の産業規模（16MW）の水素複合火力発電設備運開

ベネト州の州都ベネツィア市のフジーナで産業規模では世界初の水素火力発電所の竣工式が2010年7月12日、Enelのコンティ社長、州知事、県知事、市長などの臨席の下で挙行された。運転を開始したフジーナ発電所は、Enelのアンドレア・パラディオ石炭火力発電所内にあり、水素を燃料として約12MWの発電を行うとともに余熱回収により作られた高温の蒸気を同じ敷地内のEnelの発電設備に送ることで約4MWの追加出力が得られる仕組みとなっている。総工費は約5,000万ユーロ（55億円）で、総合熱効率は約42%である。毎時1.3トン使用される水素は、隣接するマルゲーラ港石油化学工場における窒素製造の副産品としてパイプにより供給される。年間発電量約6,000万kWhは2万軒の需要を賄うに十分な量であり、これにより1万7,000トン強のCO₂排出の抑制が可能である。